

**大学発新産業創出プログラム プロジェクト推進型 ビジネスモデル検証支援
事後評価結果**

研究開発課題名:	クルマエビ抗体様蛋白質 Dscam を用いた診断法・治療法の事業化検証
研究担当者(所属・役職・氏名)	長崎大学 熱帯医学研究所 准教授 久保 嘉直

1. 本事業での活動目的

哺乳類抗体、特にマウス抗体は診断において広く利用されている。マウス抗体は2つの遺伝子産物からなる4量体で、遺伝子工学による単離・合成・改良が困難である。一方、最近発見された甲殻類抗体 Dscam は 1 つの遺伝子から合成されるので簡便な遺伝子工学において扱うことが出来る。また哺乳類に対する毒素蛋白質や哺乳類において保存された蛋白質に結合するマウス抗体の単離は困難である。甲殻類は哺乳類から生物学的に離れているので、そのような抗原に対しても結合する甲殻類抗体が出現する可能性がある。本活動では、養殖が盛んで入手しやすいクルマエビの抗体を用いた診断法・治療法の事業化について検証することを目的とした。

2. 総合所見

事業化仮説と研究成果に基づきヒアリングを着実にを行い、ニーズを明確にした点、プログラム終了後も助成金を獲得している点を評価する。グローバル市場が見込まれる分野でもあることから、ビジネスモデルの精緻化をさらに進めて、事業化を実現させることを期待する。

以上